

論文審査結果の要旨

本研究は、看護実践において重要となる臨床的想像力に着目し、実践でどのように発揮されているかについて、独創的な方法を用いて探究したものである。研究者自身のこれまでの臨床経験と看護師の専門的思考や判断に関する知見をもとに、研究テーマを設定し、看護師の臨床的想像力の発揮の様態を段階的に明らかにした。第1段階では熟練看護師らの経験のなかから心機能が低下している循環器疾患患者の事例を選択し、第2段階ではこの事例を看護師に提示し、看護師が臨床的想像力を発揮させることにより患者の状態を的確にとらえることができるかどうか、その際にどのような臨床的想像力がどのように発揮されているかについてデータ収集し、質的記述的に分析している。これら2つの独創的な研究段階を丁寧におすすめしていることから研究遂行能力は高いと判断した。

I. 予備審査では、以下の点について指摘があった。

1) 研究方法の1段階と2段階の関連が分かりにくいいため、関連付けた説明が必要である、2) 第2段階で用いた事例の決定理由について、研究目的と関連させて述べる必要がある、3) 第2段階の事例提示の方法について、なぜ4場面に分けてインタビューを行ったのか、その理由を記述する必要がある、4) 第1段階において、臨床的想像力を捉えるためにセンスメイキング法を用いた理由について丁寧に説明する必要がある、5) 臨床的想像力を明らかにするための方法論について先行研究ではどうなっているのかを明らかにする、6) 領域というのはサブカテゴリ、カテゴリとどういう関係にあるのかを書く必要がある、7) データの示し方を工夫する必要がある、8) 結果にはサブカテゴリも記述した方がわかりやすい、9) 臨床的想像力の定義と結果を比べると、結果では身体面、病態面に特化しているように見受けられる。心理面や社会面などの結果がほとんど述べられていない理由を書く必要がある、10) 予測と臨床的想像力の区別がつきにくいので、より明確に表れるように結果の記述に加える。さらに、予測と臨床的想像力の区別がつくのかどうかについて考察の記述に明確に加える、の指摘があった。

上記の指摘事項については、公開審査時の論文では適切な修正がなされていた。

II. 公開審査では、以下の点について指摘があった。

1) 7領域の内容と臨床的想像力の関係を結果に記述することで、本研究で明らかになった臨床的想像力の発揮の実態が明確になるのではないかと、2) 研究の限界で臨床的想像力の発揮の実態が、身体面に偏った原因について、ブレイクダウンの患者の事例で患者の発言がなかったと述べている。しかし、8事例から1事例に絞った要因も影響しているのではないかと、3) 考察では、臨床経験が浅い看護師と、臨床経験が長い看護師と表現されているが、経験の長さ以外の表現で論じられないかと、4) 第2段階の研究参

加者の所属施設の数、規模、設置主体を記載した方がよい、5) 看護師の立場や環境によって臨床的想像力の発揮の仕方は異なるのではないかと、6) プレゼンテーションで使っている暗黙知という言葉について、暗黙知のレベルが、本来の暗黙知のレベルと違うのではないかと、7) タイトルを限定的にするという公開審査での意見があったが、タイトルを限定的にするよりも、どのように発揮しているかという研究目的に直結したタイトルを考える方がよい、8) 知の共有の仕方において、エビデンスに基づく必要があることを表現した方がよい、9) 循環器病棟経験年数で、グループ 1、2、3 に分けた根拠について加筆する必要があることが指摘された。

最終論文では、公開審査時の指摘事項について、適切に修正がなされていた。

以上のことから論文審査委員会は、予備審査結果および最終審査結果の指摘に沿って修正された結果、本論文の論旨の一貫性がより明確になり、看護実践における臨床的想像力の発揮の様態が記述され、看護教育への適用の意義についても明確にされていたことから、学位規則第 4 条第 1 項に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は、看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有するものと認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定した。